

体育の時間の課題

- 1 「ゲーム」や「ボール運動」の試合を多く行い、技能を身に付けるポイントなどの指導が計画的に行われていない授業が見られます。
- 2 児童が動きのこつがよく分からないまま取り組んでいる授業が見られます。

授業改善のための取組として（案）

□ 「学習指導要領解説 体育編」などで指導内容を確認しましょう。

- 取り上げた運動に応じて、各運動領域の内容である「技能」の内容を明確にし、本時に何を教えるのかをはっきりさせ、児童にも提示する。

【例】 第1学年及び第2学年「E ゲーム」【技能】の指導内容例

単元の指導内容例
（「学習指導要領解説 体育編」より抜粋）

【技能】
簡単なボール操作によって、攻めと守りのあるゲームをすること。



本時の指導内容例

- ① ねらったところに投げること
 - ② ボールを捕ること
 - ③ ボールが飛んでくるコースに入ること
 - ④ ボールを操作できる位置に動くこと
- ※ 単元の計画を踏まえ、重点化を図って指導する。

- 児童一人一人に指導内容を確実に身に付けさせることができるよう、動きのポイントなどを具体的に指導した上で評価する。
- 児童一人一人が楽しみながら技能を身に付けることができるよう、ルールや練習方法などを工夫する。

□ 児童が、「どのように動いたらよいか」「なぜこの動きが必要なのか」について、考え納得して活動できるよう指導しましょう。

- よい動きや作戦などを取り上げ、具体的に賞賛したり、学級全体に紹介したりする。
- チームの課題の解決が図られるよう、作戦ボードなどを活用して例示する。
- 教師が作戦ボードを活用して発問や助言をしたり、グループで話し合う視点を示した学習カードを活用したりする。
- 運動の場や運動の行い方の工夫をするなど、児童が自ら運動の課題の解決を目指す活動を行えるようにする。

【場の工夫例】 マット運動において、回転技を練習するための踏切板を活用した坂道マットや、倒立技を練習するための肋木の活用など、児童が自分の課題に合った練習の場や方法を選択できるようにする。

【ルールの工夫例】 ゲーム・ボール運動において、全員にパスを回す、動く範囲を制限する、一方のチームに人数的な優位性をもたせた時間を設定するなど、児童が課題を解決することができるようルールを工夫する。

【コラム】「小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック(文部科学省)」について

小学校で充実した授業を実施するには、小学校教員が、「小学校学習指導要領解説 体育編」の内容をよく理解し、その内容に沿った授業づくりをする必要があります。

文部科学省では、「小学校学習指導要領解説 体育編」の内容をより具体的にイメージできるように上記の指導資料を作成し、ホームページに掲載しています。本資料等を参考にすることにより、学習指導要領の内容に沿った授業づくりに結び付きます。

- ◆ 文部科学省掲載ページアドレス
http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyuj_itsu/1330884.htm